特集 21世紀を構想する視座（下）

公開研究会

# グローバル化と世界政治

1999年6月19日
東京・山の上ホテル

## 主催者あいさつ

**梶本幸治（生活研会長）**

主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。コーディネーターを務めていただきます山口定先生が、東欧革命・ベルリンの壁の崩壊、そしてソビエト社会主義体制の解体という歴史的転換期の直後の1992年、総評センターの研究プロジェクト報告として出版されました『市民自立の政治戦略』の中で、世界の中の日本が進むべき方向を四つのタイプにまとめられています。それを見ますと、一つは、シビリアン的国際貢献国家論、つまり民生大国として世界に貢献しようという国づくり。二つは、一国主義的生活大国論、宮沢喜一さんに象徴される考え方です。三つは、大国主義的な国際貢献国家論、つまり軍事レベルの国際貢献を強調する立場。そして四つは、「ノーと言える日本」論というように類別されております。その上で、強いていえば第1に近い立場を山口先生はとられるというように言っておられました。

最近の国会の動きを見てみますと、ガイドライン関連法をはじめ通信傍受法案、国旗・国歌法案、さらに国民総背番号制の住民基本台帳改正案など懸念すべき法案がメジロ押しであります。これらの動きの方向は、前述の四つの類別タイプから見れば、限りなく軍事レベルでの国際貢献をめざす国家論であり、「ノーと言える日本」論に近いと考えられると思います。本当にそれでいいのでしょうか。これらの法案に対して、それぞれの立場を持つ自民党、民主党、社民党が、私たち生活研の賛助会員でもあります。そういう特徴を持つ生活研が主催いたしますこの「市民の選択と21世紀システム研究会」は、21世紀に向けた日本の国づくりにその大きな役割を果たさなければならないと思います。

本日の公開研究会は、この研究会の討議過程の一環として開かれるものですが、どうか予定しております3時間、日本の国づくりを一緒に考えたいと存じます。最後までよろしくご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。（拍手）

## コーディネーターあいさつ

**山口定**　私がたまたまこのプロジェクトの座長を仰せつかっておりますので、本日も全体の司会をさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いします。

私どものプロジェクトチームは、生活経済政策研究所のお世話をいただきまして昨年9月から出発しておりまして、毎月1回のペースで研究会を重ねてきております。政治学と経済学、大きく分けましてこの二つのグループからなる学者委員が10人参加しておりまして、私が言うのもおかしいのですが、自負できる堂々たる研究者を集めることができたと喜んでいるわけです。学者の他に、この生活

経済政策研究所に関係しますさまざまの団体から参加されましたやはり10名の委員を加え、合わせて20名からなっております。

研究会はこれまで9回開催され、9名の学者がかねてからの蓄積、抱負、問題意識、そういうものを各自ご報告いただきました。きょうの公開研究会がちょうど10回目に当たるわけで、高橋進さんが最後の学者報告者となるわけです。研究会としては、これからがむしろ正念場というか、お互いに議論を重ねて、このグループとしてどういうまとまった構想なり見解なりを打ち出すことができるかということが問われるという、ちょうど曲がり角にございます。すべてが予定どおりいきますと、来年の6月ごろには1冊の本ができるかと思います。

先ほど梶本会長からご紹介がございましたけれども、私ども過去に総評センターの依頼を受けて、朝日新聞社から『市民自立の政治戦略』という本を発表したことがあります。当時はドイツ社会民主党のベルリン綱領とか、あるいは社会主義インターのストックホルム宣言とか、ヨーロッパの社会民主主義が新しく脱皮しよう、あるいは今日の「赤と緑の提携」に至る社会民主主義の新しい脱皮の局面でございました。実はそのときは本のタイトルも「政治戦略」となっておりますが、メンバーはほとんど全員が政治学者でした。その政治学者のまたほとんどの方が今回引き続いて私どものチームに参加していただいております。

しかし、今日では政治のことだけを論ずればいいというような状況ではございませんで、研究会の構成にしても、これもきわめて強力な経済学関係、とりわけ財政学の関係の方々にご参加いただきまして、一段と守備範囲を拡大した強力なチームとして再び挑戦させていただくことになったわけでございます。

きょうのプログラムの中に、ご報告いただきます坪井さんを含めてここに8名の名前が出ておりますが、きょうはご都合が悪くてどうしてもおいでになれなかったのですが、早稲田大学社会科学部教授である篠田徹さん、東京大学大学院経済学研究科教授の神野直彦さんにも正式メンバーとして研究会に参加していただいております。特に経済学者の方々は「経済戦略会議」の動向などについて歯切れのいい批判的な発言を社会的に活発にしておられるのでみなさんもご存じかと思いますけれども、私どもの研究会がスタートしてから「経済戦略会議」がございましたし、さらに21世紀の国家像を樹立する目的で「21世紀日本の懇談会」というものが小渕首相の下に設けられています。それとたまたま重なることになったので、私どものチームの任務も責任も一段と重くなったと考えております。

きょうは「グローバル化と世界政治」というテーマで高橋さんと坪井さんのお2人に、先進国の問題とアジア諸国の問題をそれぞれご報告していただくわけですが、これがまたはしなくも大変いいタイミングというか、ご存じのようにNATOがコソボへの介入の過程で新しい戦略概念を打ち出しましたし、あるいはコソボ問題自体が一つの、解決点というにしてはまだこれからの大きな仕事があると思いますが、大きな転換点でありますし、つい2、3日前に欧州議会の選挙でまた新しい動向が出たというタイミングがございます。人道的介入の論理と国民国家の論理との関係をどう整理すればいいかということを中心にして、これまでよりは突っ込んだ議論をあらためてしなければならない局面に来ていると思います。きょうはお2人の報告を中心にして、できるだけ皆さんにもご参加いただいて、実りのある集まりにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。（拍手）

**コーディネーター紹介**

山口　定（やまぐち やすし）
1934年　鹿児島県に生まれる
1956年　東京大学法学部政治学科卒
1958年　立命館大学大学院法学研究科修士課程修了
大阪市立大学教授を経て、現在、立命館大学政策科学部教授。法学博士
専攻はドイツ現代史、政治過程論、政策科学